
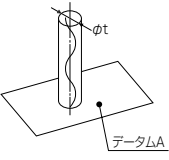
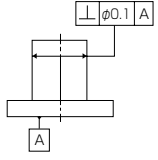

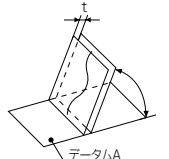
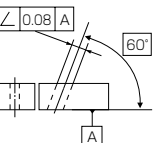

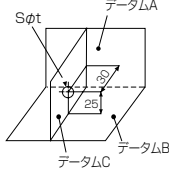
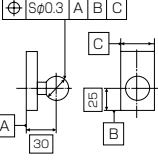

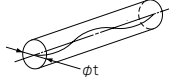
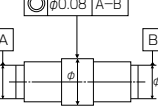

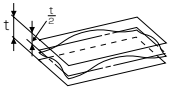
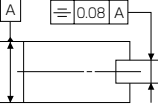

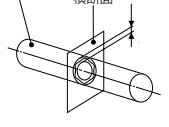
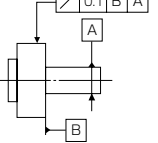

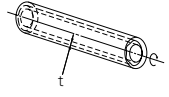
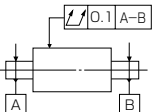


種類	特性	記号	公差域の定義	図示例と解説
姿勢公差	直角度公差		 公差値の前に記号 ϕ が付記されると、公差域はデータムに直角な直径 t の円筒によって規制される。	 円筒の実際の（再現した）軸線は、データム平面Aに直角な直径0.1の円筒公差域の中になければならない。
	傾斜度公差		 公差域は、距離 t だけ離れ、データムに対して指定された角度で傾いた平行平面によって規制される。	 実際の（再現した）軸線は、互いに直角なデータムA及びデータムBに直角で、データム平面Aに対して理論的に正確に 60° 傾き、0.08だけ離れた平行平面の間になければならない。
位置公差	位置度公差		 公差値に記号 $S\phi$ が付いた場合には、その公差域は直径 t の球によって規制される。球形公差域の中心は、データムA、BおよびCに関して理論的に正確な寸法によって位置付けられる。	 球の実際の（再現した）中心は、直径0.3の球形公差域の中になければならない。その球の中心は、データム平面A、BおよびCに関して球の理論的に正確な位置に一致しなければならない。
	同軸度公差 又は 同心度公差		 公差値に記号 ϕ が付けた場合には、公差域は直径 t の円筒によって規制される。円筒公差域の軸線は、データムに一致する。	 内側の円筒の実際の（再現した）軸線は共通データム軸直線A-Bに同軸の直径0.08の円筒公差域の中になければならない。
	対称度		 公差域は、 t だけ離れ、データムに関して中心平面对称な平行平面によって規制される。	 実際の（再現した）中心平面は、データム中心平面Aに対称な0.08だけ離れた平行平面の間になければならない。
振れ公差	円周振れ公差		 公差域は、半径 t だけ離れ、データム軸直線に一致する同軸の二つの円の軸線に直角な任意の横断面内に規制される。	 回転方向の実際の（再現した）円周振れは、データム軸直線Aのまわりを、そしてデータム平面Bに同時に接触させて回転する間に任意の横断面において0.1以下でなければならない。
	全振れ公差		 公差域は、 t だけ離れ、その軸線はデータムに一致した二つの同軸円筒によって規制される。	 実際の（再現した）表面は、0.1の半径の差で、その軸線が共通データム軸直線A-Bに一致する同軸の二つの円筒の間になければならない。